

Couleur —人物の静と動—

クール・色調



「夜の食卓」油彩 1962～1969

令和7年度前期展

野口彌太郎記念美術館

2025.4.22.TUE ▶▶▶ 8.24.SUN

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】月曜日（祝日をのぞく）

【入館料】一般100円，小中学生50円（団体15名以上一般80円，小中学生30円）

＊市内の小中学生及び付き添いの方は、土曜日無料

【所在地】長崎市平野町7-8 平和会館1階

【問合せ先】095-843-8209

Couleur—人物の静と動—

Couleur（フランス語、クルール）は、色調（色彩の濃淡強弱の調子）や精彩（美しい色どり）を意味します。野口彌太郎は、ヨーロッパで学んだフォービズム的体質と洗練された色彩感覚をもち、日本のフォービズムの典型を示したと言われています。

今年度は、野口彌太郎作品のなかから、特に色調・色彩に着目し、風景や人物など、色彩の濃淡や強弱によって生み出されるその光や影、静と躍動の美をとらえた作品をご紹介します。前期展では、“人物”を題材とした作品を主に展示します。野口は常に、より豊かな色彩表現を追求しており、歳を重ねるごとにその表現は進化していました。

モデルとなった人物のもつ雰囲気や躍動感が感じられる風物など、人物の静と動を感じられる作品を、ゆっくりとお楽しみいただければ幸いです



野口彌太郎（1899～1976）

日本的なフォーヴィズムの画風を確立した洋画家。独立美術協会所属。1973年『那智の滝』芸術選奨文部大臣賞（美術部門）受賞。

長崎とのかかわりは、12歳の時、父の郷里であった長崎県北高来郡小野村（現・長崎県諫早市小野町）に転入したことがきっかけでしたが、特に、戦後、両親が郷里の諫早市に転居したことで、たびたび長崎を訪れるようになります。幾度も長崎を訪れ、時に数か月も滞在し、立体的な景色を形づくる斜面地や逆光にくすむ暮れの長崎の風景を描くなかで、独特の鮮やかな色調を見出したといわれています。



1



2



3

1. 老夫婦, 1931, 油彩, 2号F / 2. 二人の女, 1948, 油彩, 8号F / 3. アダムとエヴァ(パリ島にて), 1974, 油彩, 50号F

野口彌太郎記念美術館

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】月曜日（祝日をのぞく）

【入館料】一般100円、小中学生50円

（団体15名以上一般80円、小中学生30円）

※市内の小中学生及び付き添いの方は、土曜日無料

交通アクセス

長崎駅から
路面電車▶ 長崎駅電停から赤迫行き
（1番系統・3番系統）乗車、原爆資料館電停下車、徒歩3分
バス▶ 住吉方面のバスに乗りし、浜口町バス停にて下車。徒歩3分

※見学所要時間：約30分

原爆資料館隣。原爆資料館からは館内通路で移動できます。

